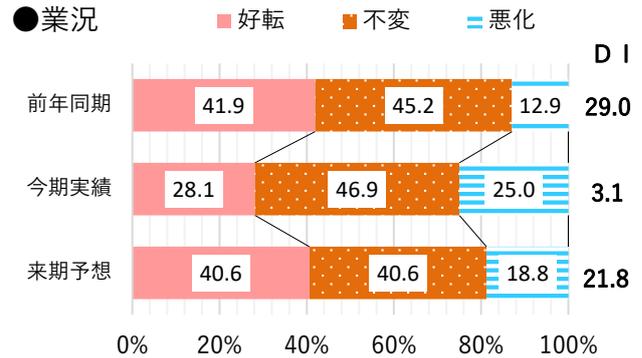


製造業

業況、売上、採算

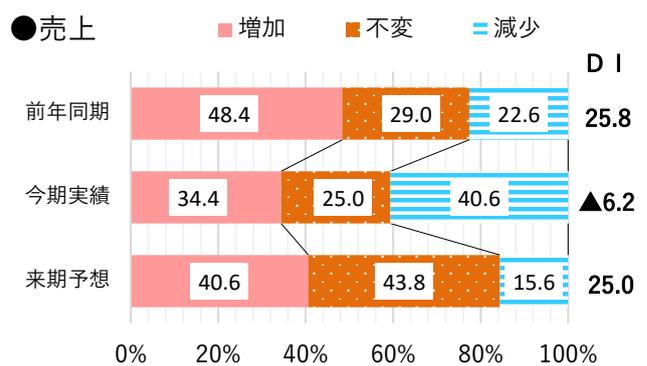
今期(2024.7~9)の業況判断DIは3.1で、前年同期(2023.7~9)と比べ25.9ポイント低下しました。

来期(2024.10~12)は、業況の好転傾向が強まると予想しています。



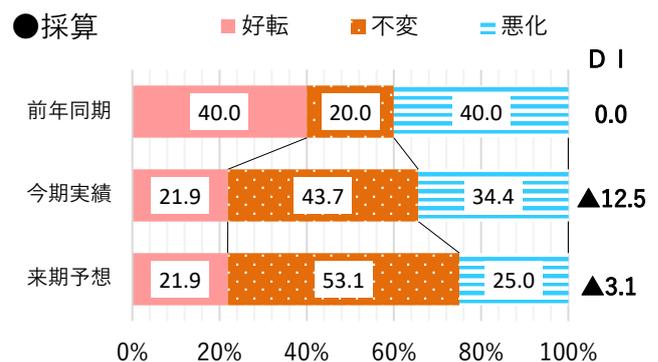
今期の売上DIは▲6.2で、前年同期と比べ32.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

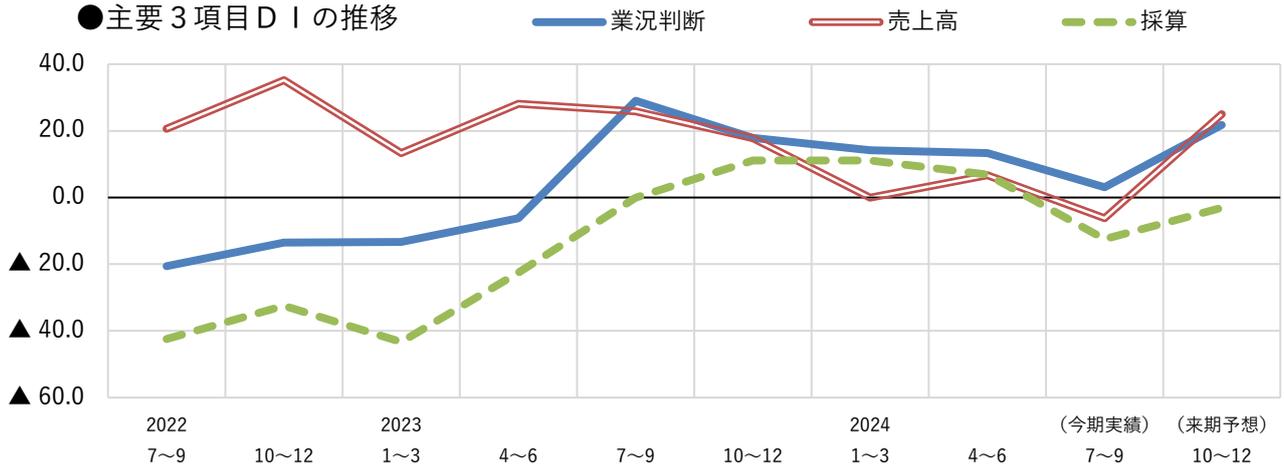


今期の採算DIは▲12.5で、前年同期と比べ12.5ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



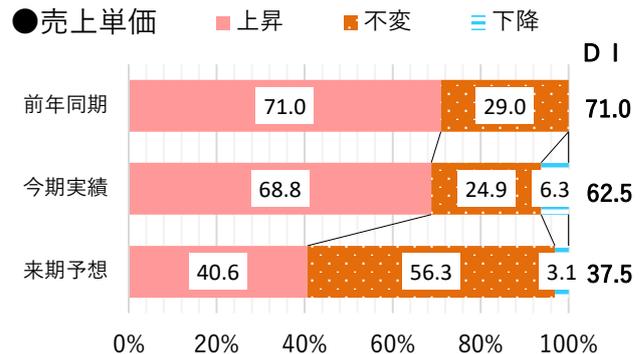
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

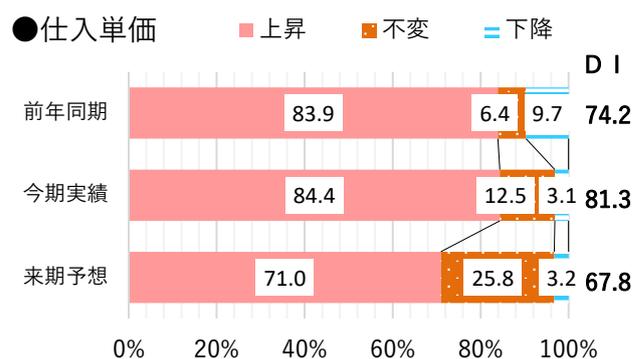
今期の売上単価DIは62.5で、前年同期と比べ8.5ポイント低下しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



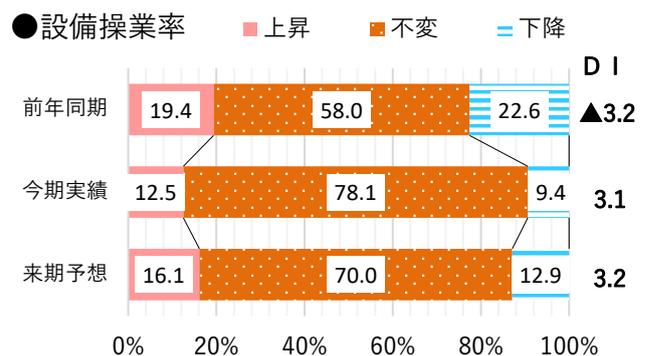
今期の仕入単価DIは81.3で、前年同期と比べ7.1ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは3.1で、前年同期と比べ6.3ポイント上昇し、プラスに転じました。

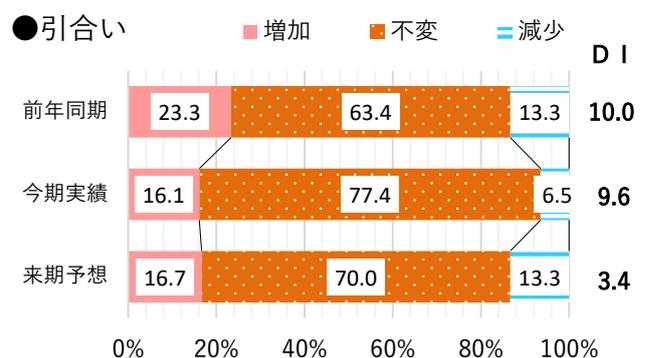
来期は、設備操業率のほぼ横ばいを予想しています。



引合い

今期の引合いDIは9.6で、前年同期と比べ0.4ポイント低下しました。

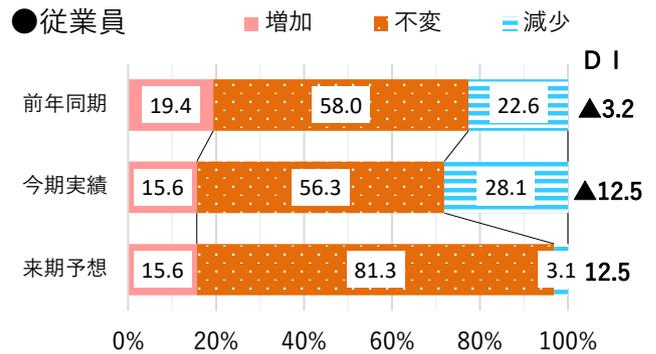
来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



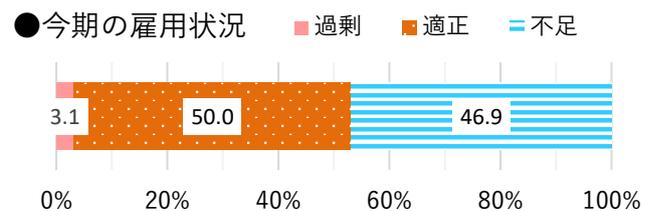
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲12.5で、前年同期と比べ9.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.1%、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は46.9%でした。



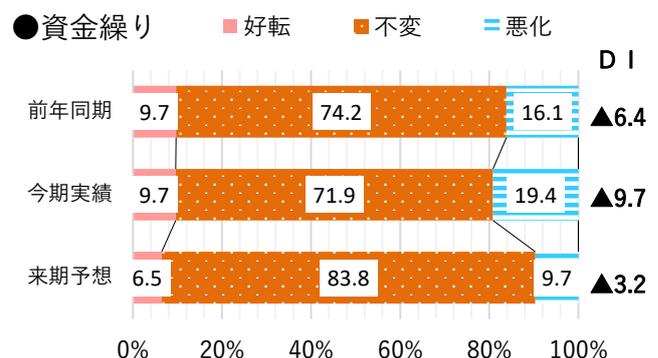
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、31.2%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。46.8%の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	3
不変だった	過剰	1
	適正	10
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	4
	不足	5

資金繰り、設備投資

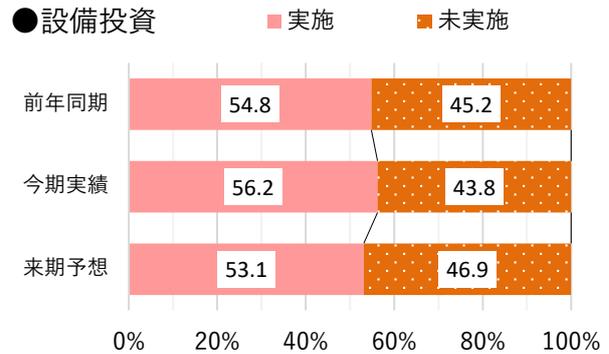
今期の資金繰りDIは▲9.7で、前年同期と比べ3.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



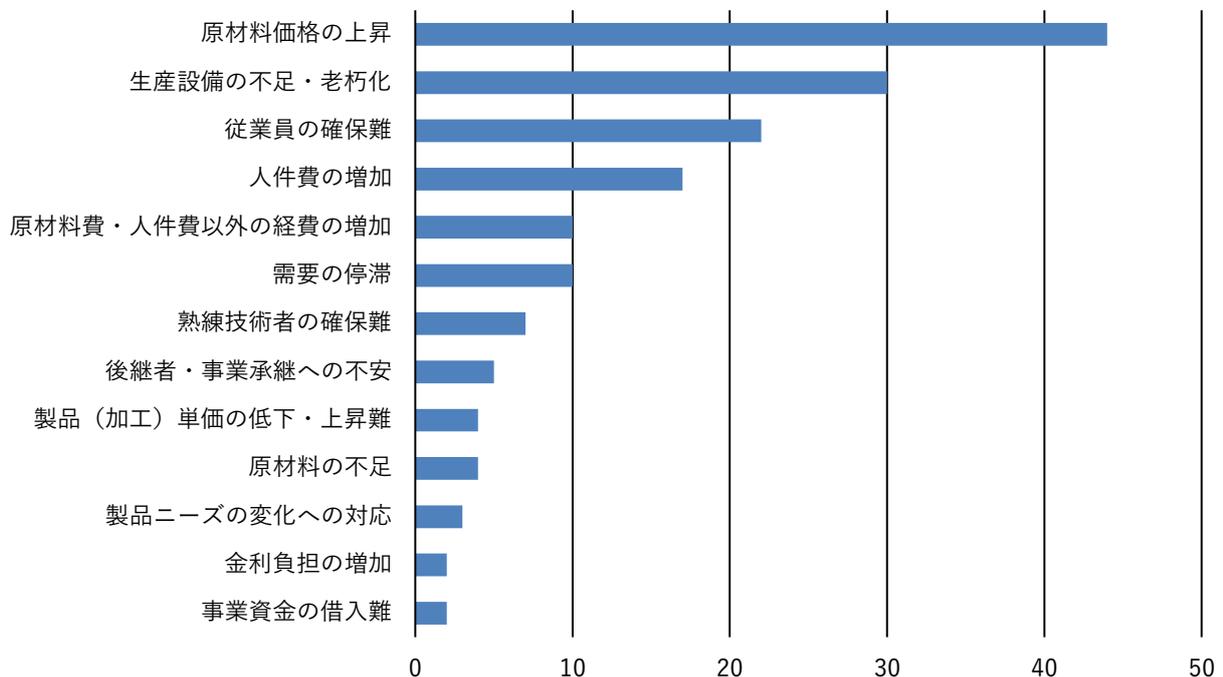
設備投資を実施した企業の割合は56.2%で、前年同期と比べ横ばいとなりました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は53.1%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- お土産需要、インバウンド需要の回復で売上額は増加しているが、原材料価格の上昇に価格転嫁が追いつかず、収益面では厳しい状況だ。（食料品）
- 前年比の売上はやや厳しい結果となったが、前年並の利益を確保できた。仕入価格の上昇はあるが、コストダウンを工夫している。（食料品）
- 原材料、包装資材等の仕入価格の上昇、燃料費、運賃等の主要経費の上昇に当社の販売価格の改定が追いついていない。（食料品）
- 販売価格の転嫁が奏功した。仕入価格が予想外に下落し、相応の収益を確保できた。（食料品）
- 売上は増加し、仕入価格は上昇した。最低賃金を上回る賃金を支給している。（食料品）
- 社会的な傾向だと分かってはいるが、原材料価格の上昇と賃上げが厳しい。（食料品）

- 売上は変わらないが、仕入価格の上昇による利益率の低下は否めない。（食料品）
- 売上は増加したが、原材料価格の高騰の影響が大きい。（食料品）
- 仕入額の上昇と人材確保が厳しい。（食料品）
- 施設改装に伴う効果により、売上が微増した。（飲料）
- 売上額は増加しているが、利益はそれほど増加していない。（金属製品）
- 工事の延期などの影響を受け、売上額は低調だった。（金属製品）
- ゴム長靴等、履物関係の不調が大きく響いた。特に主力の総ゴム靴において、前年同期比44%減と大きく出遅れた。これから冬物商戦が始まるため、夏の分を取り返したい。一方、クリーンルーム用の安全靴は前年並みと堅調だった。（ゴム製品）
- 物価高による消費低迷から、売上は伸び悩む。原材料メーカーは設備老朽化のため、ユーティリティコストが上昇し、当社への販売価格が引き上げられている。価格引き上げに了承しなければ、原材料の販売を止められる。中小企業より大手企業の賃上げ幅が遙かに大きく、新卒採用は厳しい。（プラスチック）
- 原材料の価格上昇が続き、より一層の価格転嫁を必要としている。そのため販売数量が減少し、工場の稼働率が低下している。（プラスチック）
- 原材料仕入単価の上昇を受け、適正販売価格を検討している。（プラスチック）
- 売上は増加しているが、原材料価格が高騰しているため、利益に結びつかない。（紙製品）
- 仕入価格の上昇が課題だ。（紙製品）
- 売上が増加した。（印刷業）

[来期の業況について]

- 設備投資により、生産量の増加を見込む。販売、仕入価格の変動が読めず、収益は不透明だ。（食料品）
- 物価はまだ上がると思われ、人手不足も年々厳しくなる。製品の値上げや、賃上げが必要だ。（食料品）
- 今後も原材料価格と賃金の上昇が続くと思われるので、適正な価格や賃金を見極めたい。（食料品）
- 生産量の増加に伴い、人員確保が重要となる。賃金上昇の影響も見込まれる。（食料品）
- 仕入価格の上昇に加え、最低賃金改定に伴う経費の増加が収支に影響する。（食料品）
- 主力商品の値上げが収益の改善につながることを期待している。（食料品）
- 仕入価格や経費上昇の状況が続き、改善は見込めない。（食料品）
- 仕入額の上昇と人材確保難が続く。（食料品）
- 値上げに伴う反響が不透明だが、それによる売上の微増を見込む。（飲料）
- 大型物件の出荷があるため、業況の好転を見込む。（金属製品）
- 物流と人材確保が大きな問題だと思う。（金属製品）
- 得意先への値上げ交渉を続ける。生産性を上げるための設備投資を実施し、来年度の賃上げに向けての準備期間としたい。（プラスチック）
- 原材料価格が上昇する。需要の停滞により、販売価格への転嫁は困難になる。（プラスチック）
- 販路を拡大し、売上の増加を図る。（プラスチック）
- 原材料費の高騰が続く。（紙製品）
- 人材確保に苦勞する。（紙製品）
- 最低賃金の動向、加工賃の価格転嫁の見通しが不透明だ。公共事業の予算増加が見込まれるため、売上単価の上昇と業況の好転が期待される。（その他繊維製品）
- 防衛省関連の加工物件の増加が見込まれる。（衣類）
- 売上の増加が続く。（印刷業）